

2019年度 教員免許状更新講習（幼稚園教諭対象）

日 程 8月6日（火）～8日（木）（予備日8月9日）

講習内容 選択領域 E 18時間（6時間×3日）

| | |
|---|---|
| 講習題目 幼児教育の今日的課題 | |
| 講習概要 現代社会の多様な変化に対応しつつ、人々がともに未来を切り開くために、幼児教育に求められるものは何かを検討する。幼児理解に基づいた評価の在り方、子どもの遊びと学び、リズムや音声から親しむ英語、幼稚園における特別支援教育の役割、体感することから生まれる造形表現と音楽表現などをテーマに、最新の研究成果や具体的な指導法について、理論と実践を通じて考える。 | |
| 8 月 6 日 | <p>1</p> <p>授業題目 幼児理解に基づいた評価の在り方について～カリキュラム・マネジメントをふまえて～</p> <p>講 師 寺見 陽子（教育学部 教育学科教授）</p> <p>授業概要 幼児理解に基づいた指導計画と評価、それに伴うカリキュラム・マネジメントの在り方と保育の質の向上について考える。また、幼児期に育みたい3つの資質・能力と幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿を踏まえ、保育内容の見方・考え方、小学校への接続について理解を深める。</p> |
| | <p>2</p> <p>授業題目 幼児期の遊びと学び</p> <p>講 師 井上 知子（教育学部 教育学科教授）</p> <p>授業概要 幼児にとっての「遊び」は、自主性、自己統制、協同性、探究心、創造性など、幼児の成長や発達に必要なものを体験を通して学んでいく学習の場である。本講習では、具体的な遊びのどのような場面で、どのように身に付けていくのか、また、幼児が必要な経験を得るためにはどのような環境の構成や援助が求められるのかを事例を通して学ぶ。</p> |
| 8 月 7 日 | <p>3</p> <p>授業題目 音声に慣れ親しむ英語</p> <p>講 師 山内 啓子（教育学部 教育学科教授）</p> <p>授業概要 小学校3年生から外国語活動として英語が始まり、国際理解・コミュニケーションとともに、より語学のスキルの上達を重視する教育内容になります。年齢が若いほどリズムや音声に柔軟に適應できることから、幼稚園でも音声から英語に親しむことは、園児たちが小学校に進学するとき有用と言えるでしょう。本講習では日本語との違いに注目しながら英語の音声とリズムの特性を学びます。</p> |
| | <p>4</p> <p>授業題目 五感と造形表現の関係を探る</p> <p>講 師 奥 美佐子（教育学部 教育学科教授）</p> <p>授業概要 幼稚園教育要領の領域表現の“内容”に、「様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりすること」を日常の生活の中で経験することが挙げられている。子どもたちはこれらを五感を通じて気付いたり、感じたりしている。五感を駆使した体験はイメージとして蓄積され、表現として顕在化される。本講習では五感を通して感じた事が造形表現にどのように現れるか、どのように表現イメージとなるのかについて講義と実技を交えて探る。</p> |
| 8 月 8 日 | <p>5</p> <p>授業題目 幼児期における特別支援教育と家族支援のあり方</p> <p>講 師 谷川弘治（教育学部 教育学科教授）・金丸彰寿（教育学部 教育学科講師）</p> <p>授業概要 多様な人々が共に生きる社会（多様性の承認と保障）を目指すインクルーシブ教育を創りだす上で、特別支援教育の役割は重要です。そこでは、特別なニーズのある子どもとその家族が自分らしい生活を営み、両者の発達を保障するようサポートすることが大切です。本講習では、幼稚園における特別支援教育の動向や現状を押さえつつ、子どもの発達を支える教育実践及び家族支援のあり方について考えていきます。</p> |

| | |
|---|---|
| 6 | <p>授業題目 子どもの豊かな音楽表現のために</p> <p>講師 奥村 正子（教育学部 教育学科准教授）</p> <p>授業概要</p> <p>幼稚園教育要領の領域「表現」では、子どもが豊かな感性をもち、感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむことを重視しています。様々なできごとや身の回りの事象を、自分の声や体の動きを通して表現することは子どもの発達とどのように関わっているのでしょうか。音楽の特性と子どもの表現について理解を深めます。さらに、教師自身の音楽的实践力を高めるために、「リズム楽器」や「声」について参加型の授業を行います。</p> |
|---|---|